

杉並区立荻窪小学校 学校運営協議会だより

R 5. 2. 28

令和4年度 第10回 学校運営協議会報告

今年度第10回目の学校運営協議会が、2月24日（金）に行われましたので、お知らせいたします。

日時 2月24日(金) 10:00～12:00

場所 荻窪小学校 荻小ホール

会議内容

- ① 佐野会長 あいさつ (CS委員とPTA役員との懇親会についてなど)
- ② 西脇校長 あいさつ (学校の様子、今後の予定など)
- ③ 協議
 - ・学校運営の状況 (感染対策と教育活動)
 - ・令和5年度教育課程届について
 - ・「自立的・協働的な学校づくり」予算について
 - ・CSアンケート集計について
 - ・「OGI²CS」(CSと“荻OGI”のパンフレット)について
 - ・CSと荻小PTA役員の懇談会について(3/16実施)

社会科見学に出かけた6年生、公共の場での鑑賞マナーがよく、集合時刻を厳守する姿も大変立派であったという報告がありました。3月3日には、6年生を送る会があります。みんなで素敵な会にしていきたいと思います。

協議の後には、令和4年度 学校関係者評価委員会を行い、委員評価の集約をもとに、関係者評価を実施しました。

学校関係者評価より

各委員の評価を共有していく中で、「体力づくり」について話題になりました。

体力づくりの基礎となるのが体幹を鍛えることです。最近の子供たちの学習中の姿勢などを見ると、この体幹が弱い子が増えているように思います。「言葉のチカラ」でご指導いただいている穂苅先生から次のようなお話を伺いました。

- ・生活の変化に伴い、生活の中で体幹を使う（例えば、布団の上げ下ろし、和式トイレでしゃがんだり立ったりすること、和室で床に座って食事や勉強をすること、正座をすることなど）機会が減っている。
- ・足を組んで文字を書く子が増えている。書く時の姿勢は、両足の裏をきちんと床に着け、丹田（おへそから指3つ下の部分）に力を入れて丹田を立てるようとする。すると腰がすっと伸び、一番重い頭もぐらつかなくなる。
- ・書く時の姿勢の乱れは、鉛筆を強く握りしめてしまうため、書いた文字が見えず、のぞき込むような姿勢になってしまうからである。正しい鉛筆の持ち方を身に付ける必要がある。
- ・正しい鉛筆の持ち方をすると、たくさん文字を書いても疲れないため、集中力が上がる。また、正しい鉛筆の持ち方は、指先を刺激するので、脳に良い刺激が送られることになる。
- ・体の正中線に対する左右のバランスが悪いと、紙を利き手の方に寄せていたり、紙を傾けないと書きづらかったりする。子供の書く姿を後ろから見るとその状況がよく分かる。

学校では、1年生に鉛筆の持ち方や書く時の姿勢を指導します。しかし、3年生ごろになると、書く文字の量が一気に増えるので、子供たちが書きやすい持ち方にしてしまう傾向があります。体力づくりの観点からも文字を書くこと、その時の姿勢について学校でも繰り返し指導していかなければならないと思いました。

次ページに1年生の書写の教科書に載っている、鉛筆の持ち方や書く時の姿勢を紹介します。ご家庭でもお子さんが書く時の姿勢について注目してみてください。

次回の予定 3月16日（木）10:00～11:30

文責：副校長 加藤

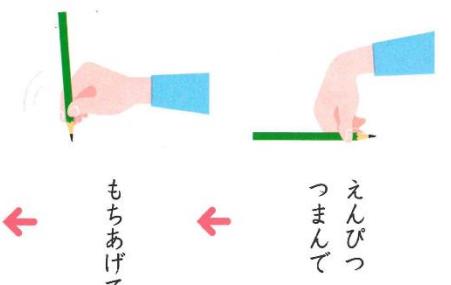
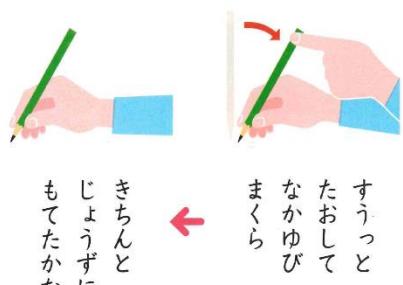
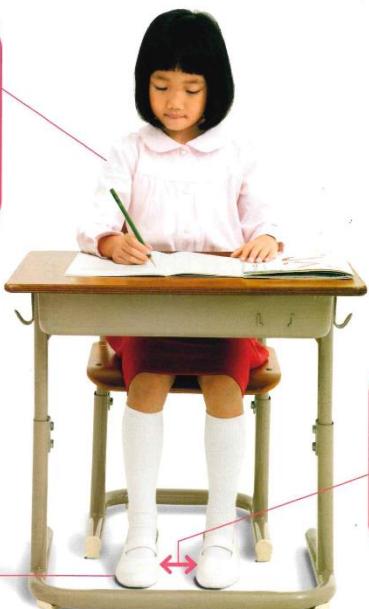
じを かく せい



さあ かこう



すこし あける。



えんぴつの もちかた



えんぴつを もって、
てを おいて みよう。

